

# ぱれっと

Palette

7

2023 July  
vol.275

## 特集 JA岡山中期計画の取り組み ～令和4年度 実践概況報告～

農を担う  
「足守メロン」農家 森 真吾 さん  
足守地区……………10ページ

今月の折り込み 2023年7月号カタログショッピングチラシ ほか

# J A岡山中期計画の取り組み

## 【令和4年度実践概況報告】

当JAは、令和4年度の通常総代会で設定した「JA岡山中期計画」に基づき、同年度から令和6年度までの3力年において、その取り組みを進めています。

中期計画の具体的な取り組み内容は、第35回岡山県JA大会で決議された「不断の自己改革の実践」に向けて策定した「中期計画」に掲げる重点取り組み事項（7項目）別に、年度ごとの進捗管理や実践状況を検証した後、組合員・利用者の皆さまへ広報誌等を活用して情報発信することとしています。今月号では、3力年計画の初年度（令和4年度）の実践概況をご報告させていただきます。



### 1. 農畜産物の生産振興

①米の安定多収・省力化生産技術の確立と普及・拡大および高温耐性品種の調査・研究

・ドローンによる葉色診断結果に基づき、GIS地図システムに測定データの入力・蓄積を行いました。

・生産者、普及指導センターと追肥の必要性についての協議を行いました。

・ドローンを活用し、水稻の刈取適期診断を行い、情報をもとに適期刈取指導を実施しました。



・「簡易分解性被覆尿素」コート基肥一発肥料」について、被覆崩壊性の継続試験を行った結果、代掻き時の被覆殻の浮遊はなく、収量調査についても良好な結果が得られました。

・被覆コート肥料の流出防止対策を目的に4割低減の肥料試験を行いました。

・収量調査の結果、現行のプライベートブランド肥料と同等の結果となりましたが、肥効面・コスト面で課題があり、次年度以降も継続して実証試験を行うこととしました。

・高温耐性有望品種として「つやきらり」の収量調査を行い、対照区の「ヒノヒカリ」に比べて、収量性、品質において優位性が確認できました。

#### 【収量調査結果】

つやきらり：750粒/10㎡  
ヒノヒカリ：593粒/10㎡

また、食味官能試験においても「つやきらり」は「ヒノヒカリ」と同等の評価が得られました。

#### ②麦類の高品質生産対策

・小麦「ふくほのか」について、タンパク含有量向上の実証試験を行い、化成肥料14-14-14+実肥

硫安区が収量、タンパク含有量において有効であることが確認できました。

・二条大麦「サチホコルデン」作付け1年目として粗タンパク含有量を測定し、平均タンパク含有量10・2%を確保しました。

・普及指導センターと連携し、小麦の高品質・安定生産に向けて実肥の施肥指導を行いました。（西大寺宮農センター管内11会場・参加者97名）

・全生産者のタンパク含有量を測定し、適正値以下の生産者に対して追肥指導を行いました。

・土壌診断を実施し、pH、腐植など不足しているほ場が多い傾向であったため、診断結果に基づき、施肥ならびに土づくり等の改善提案を行いました。

#### ③園芸品目の生産拡大と産地の活性化

・営農振興支援事業の組合員への周知を継続して行い、管内農産物の生産拡大ならびに果樹の新改植による園地更新を図りました。

#### 【新規作付拡大面積】

・営農振興支援事業生産拡大実績

#### （3月末現在）

##### 〈野菜〉

重点品目（夏秋ナス、白菜、キャベツ、タマネギ、レタス） 2・76畝

その他（ホウレン草、小松菜、イチゴ他） 6・96畝

##### 〈果樹〉

・モモ（清水白桃・おかやま夢白桃・白皇<sup>®</sup>）の新改植面積4・8畝（うち新植面積2・0畝）

・ブドウ（ピオーネ・シャインマスカット・オーロラブラック・紫苑）の新改植面積5・5畝（うち新植面積1・1畝）

・新規就農予定者5名が体験研修を行い、うち実務研修者3名に向け支援を行いました。（岡山市：モモ2名、ブドウ1名）また、行政と連携した各種事業に取り組み、新規就農者数18名（岡山市8名、瀬戸内市2名、玉野市3名、吉備中央町5名）を確保しました。

・もも農業塾（塾生：10名）、ぶどう農業塾（塾生：15名）を実施し、受講終了後、生産部会、直売所会員への加入推進を行いました。



##### 〈花卉〉

・各営農センターと連携し、花卉の新規栽培者の募集を行うための相談会を開催しました。（管内4力所）

・関係機関と新規就農者の情報共有を図るため、定例会へ出席し、就農支援に向けて情報交換を行いました。（11回）

#### ④和牛繁殖経営の安定

・関係機関と同行し、「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」を活用した飼養管理技術指導、県の基幹種雄牛を活用した交配指導を行いました。年間出荷頭数248頭のうち、31頭の「おかやま四ツ☆子牛」を市場へ出荷しました。（出荷率12・5%）

### 2. 販売戦略の強化と販売体制づくり

#### ⑤大規模農家の法人化支援と集落営農組織の運営支援

・担い手サポートセンターと連携して農業経営セミナーを開催し、インボイス制度の説明会を実施しました。（参加者：183名）

・集落営農組織への高収益作物の品目提案（キャベツ・ブロッコリー・カボチャ等）と試験栽培を実施しました。（2組織）

・JA岡山の安定取引および実需者との結び付きを強化するため、米卸、実需者等との商談を延べ49回行いました。

・令和4年産米において関係部署および販売先との商談を行い、消費者直接販売を3,676・5俵行いました。（前年度対比91%）

・「晴々ロマン」2詰袋について、農産物直売所等で販売を行いました。

・JA岡山プライベートブランド商品の「温羅の舞」、「ヒノヒカリ」、「朝日」について、農産物直売所

等で精米販売を行いました。

・JA岡山米「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「朝日」等について、ホームセンター・郵便局等で玄米販売を行いました。

・モモ、ブドウの需要期に合わせて安定出荷販売を行うため、重点取引市場（関東、関西、地元市場）との連携により安定取引を行いました。（モモ：378ト、ブドウ：前年度対比166%、ブドウ：652ト/前年度対比97%）

・需要期に合わせて重点市場への冷蔵シャインマスカットの計画出荷を行いました。また、新たな販売先として関西市場への出荷を開始しました。全出荷量2・4ト（うち関東1・6ト、関西0・6ト、県内0・2ト）

・販売戦略の一環として、毎月2回（上期・下期）の産地情報ならびに市場情勢を産地、全農事務所、市場、営農センター園芸担当者からの情報を取りまとめ、情報共有を図ることで有利販売につなげました。

・秋冬野菜の全農向け業務・加工用出荷を計画的に行うとともに、

・TAC指導員の課題実践の取組成果報告会を開催し、活動内容について情報共有を図りました。

・全農と連携し、肥料・農薬メーカーとの同行訪問（商品紹介）を行い、担い手農家等への訪問強化を図りました。

・本所指導課職員による基礎技術研修（座学、現場研修など）を実施しました。（計2回：16名）  
・営農指導のスキルアップのため、本所指導課職員による営農センター新任職員向けの営農指導基礎研修会を開催しました。（計8回：参加人数58名）

#### 4. 「食」と「農」を基軸とした地域コミュニティの活性化

・**農業体験学習・親子料理教室の開催**  
・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら女性部との連携による「ちゃぐりんフェスタ」を開催しました。（10会場）

施設茄子（備南）の期間相対取引による値決め販売を行い、有利販売につなげました。（キャベツ：5083ト、白菜：1,002ト、施設茄子：215ト）

・県、全農と連携し、イチゴ「晴母」の東京青果市場への計画出荷を行い、(株)ブランドの認知度の向上を図りました。全出荷量12・1ト（うち東京青果5・5ト）

・新型コロナウイルス感染症の影響により、県内外イベントが制約される中、岡山駅の「エキチカひろば」でJA岡山管内産のモモ・ブドウ（7月）、イチゴ（3月）の販売促進フェアを行いました。



256名参加：芋ほり、工作、野菜栽培、料理など）

#### 5. 総合事業を通じた生活インフラ（生活基盤）機能の発揮

##### ① 組合員健康診断の実施

・巡回人間ドックや動脈硬化症健診を中心とした組合員健康診断の実施に当たり、実施支所等でのポスター掲示による受診者の募集など、各地区において健診を実施することで、組合員の疾病の早期発見など健康増進活動に取り組みました。（31会場：受診者数944名）

##### ② サロン「みんなのお家」の開催

・「JA岡山助け合いの会かがやき」との連携により各地域でサロン等を開催し、「JA健康寿命100歳プロジェクト」を実践することにも、高齢者の生きがいと交流の場を提供することで高齢者支援を行いました。（サロン：28回 利用者：301名（協力会員80名）、みんなのお家：9回 利用者：111名（協力会員34名））

・業務用一次加工品の「清水白桃シラップ漬け」「みかん果汁」について、外部委託による製造、県内菓子メーカーへの販売を計画的に行いました。（清水白桃：シラップ漬け3詰缶 5,215缶・前年度対比270%、みかん果汁：2詰袋1,994袋・前年度対比124%）



・新規委託輸送会員の増加により、はなやか中央店の午後からの品揃え充実を図りました。（新規会員南ルート会員：28名、北ルート会員：12名）

・直売所会員向けに青果物の売れ筋ランキングと精算書を紙面に同封し、店舗の品揃えの充実を図るため、毎月情報提供を行いました。

・インターネット販売「花野果オンライン」の品揃え充実のため、新規に岡山白桃の晩生種の「白皇」、「沢田柿」、「すき焼きセット」等を掲載し販売につなげました。（令

#### 6. 支所等を拠点とした「JAくらしの活動」の実践

##### 地域独自イベントの開催、支所ふれあい旅行の実施

・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、地域独自イベントは開催せず、女性部との連携による「ちゃぐりんフェスタ」の開催や支所・営農センターだよりの発行など、年間を通じてくらしの活動の実践に取り組みました。行動制限緩和が進む中、全国旅行支援を活用し、年金友の会親睦旅行や女性部活動などを中心に企画旅行を実施しました。（20支所：22件）

#### 7. 正・准組合員とのメンバースhipの強化

##### ① 女性部・フレッシュジュミスの活動紹介や加入促進

・地域内交流会を通じて、食品ロス削減について情報を共有し、女性部内の交流を図りました。女性部20支部：2,380名（うちフレッシュジュミス5支部：64名）

和4年度販売実績：9,963千円（税込） 前年度対比93%



・産地交流として、JAおきなわの加工品（ジュース、黒砂糖等）、JAえひめ中央の柑橘類の販売を通じて直売所の魅力ある店舗づくりに努めました。（販売金額：JAおきなわの加工品 946千円（税込）、JAえひめ中央 1,908千円（税込））  
・農産物直売所の新規出荷会員は、68名（うち委託輸送会員40名増加しました）。

#### 3. 営農指導体制の充実

##### TAC指導体制の充実

・TACリーダー会議を月1回開催し、担い手情報、各種試験の

##### ② 広報誌「ばれっと」およびホームページなどによるJAくらしの活動の紹介

・食農アンバサダー募集キャンペーンでは、305件の応募があり、全国から幅広い投稿が集まりました。賞品として人気の高いお肉とあたご梨をきっかけにキャンペーンに興味を持ってもらうことができました。選ばれたアンバサダー10名は、1カ月間に計46回の投稿を実施し、発信を通じてJA岡山の食と農の魅力を引き出し、イメージ向上を図りました。

##### ③ 女性参画に対する理解促進活動の実施

・男女共同参画のつどいin岡山を開催し、男女共同参画についての理解を深め意識の醸成と定着を図りました。



# 高品質なメロンが育つよう環境を整え、基本を怠らず実践する

森 真吾さん

足守地区：「足守メロン」農家

「もり しんご」

1984年生まれ。JA岡山足守メロン部。「足守メロン」を栽培。趣味は韓国ドラマ鑑賞。座右の銘は「上見て励め」。



5月19日、足守地区の森真吾さんにお話を伺いました。

## 一から携わる農業に興味をもつ

―就農したきっかけは

一からものづくりに携わること以前から興味があり、食につながる農業もその一つとして考え、県の農業の視察事業に参加する中で農業をしてみたいという気持ちが強くなりました。



農業について思いを話す森さん

就農を考えていた時、母に相談

した際に母が長年働いていた「足守メロン」の栽培を提案されました。ベテラン農家さんが後継者を探しており、話を伺ってチャレンジしてみたいと思い、就農を決意しました。

―農業を始めてからは

事業を引き継ぐ前の3年間は、研修期間として、基礎を生産者から教わりました。その後、今年から1月から正式に温室を引き継ぎ、現在は8棟の温室で栽培しています。1月に定植した苗が実り、ちょうど5月頃から「足守メロン」として出荷しています。

―楽しいことは

計画を自分で立て、考えることが楽しいです。メロンは樹の強さと実に栄養が渡るようバランスよく管理することが大切です。作物をよく観察しながら温室内の温度調節や誘引や芽かき作業など基本を大切にしています。

―栽培上でのこだわりは

メロンがよく育つように温室内の環境に目を配ることです。「足守メロン」は温室内の温度が20〜30度が適温なため、夏場は温室内が高温になりすぎないように遮光ネットを設置したり、冬場は日照が弱くなるので、温室のガラスを磨いています。

## 高品質な「足守メロン」を食べてもらいたい

―今後の抱負は

網目がきれいにできておいしい高品質な「足守メロン」をつくり続けるため、基本を怠らず、効率的に栽培や作業を行えるよう考え実践していきたいです。

無事に糖度が高いおいしいメロンが出来ているので、大切な人への贈り物や、自分へのご褒美に食べてもらいたいです。

聞き手：JA岡山広報担当



メロン一つ一つに帽子をかぶせます



丁寧に梱包します

## 野菜

梅雨明けは  
気温が高くなる  
ので注意！



営農部指導課  
祇園 将人

7月になると梅雨が明け、夏本番の暑さになってきます。高温時での長時間作業など無理をしないよう、適度に休憩をとりながら楽しく農作業を行いましょう。

### ●ネギの干し苗づくり

葉ネギなどの青ネギは、初夏にネギの株を掘りあげて乾かして干し苗とし、秋に苗のように植え付けることができます。

### ●株の掘りあげ

ネギを栽培していると、ネギ坊主が出る場合がありますが、無駄な養分を使わせないために早めに摘み取って株の充実を図ります。ネギ株の掘り取りは6月下旬～7月上旬に

掘りあげて、15℃くらいに切りそろえます(根を残します)(資料1)。その時に病気の株などを取り除いてください。その後束ねて軒下など雨の当たらない日陰でカラカラになるまで干します。

### ●株の植え付け

干し苗の植え付けは、8月下旬～9月上旬になります。干した苗を植え付け前に葉の分岐点より5℃程度上で切り落とします。5～10℃程度の植え溝に、2～3本ずつ株間15℃で植え付けます。植えたときにすぐ灌水をすると株が腐る場合があるので、発根し始めてから灌水を行います(植え付け約1週間後)。その後は新芽が伸び始めたのを確認したら10平方メートルあたりJA岡山専用有機肥料などを約300g追肥します。その後も葉色を確認しながら1カ月おきに追肥を行います。その時、同時に除草も兼ねて土寄せも行いましょう。

### ●西瓜の管理

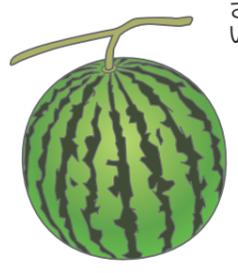
家庭菜園でも人気の西瓜ですが、植えて受粉もおこない果実が大きくなってきたところに枯れてしまった、という経験はありませんか？多くは梅雨の長雨で根が弱り、梅雨明けの猛暑で根が乾き枯死してしまうのが原因です。そうならないように管理しましょう。

### ●畑の排水対策

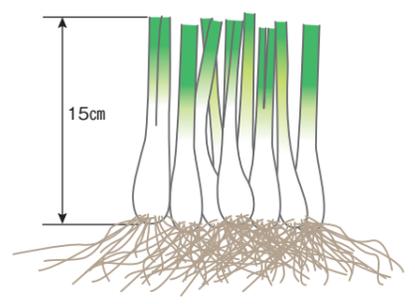
植える時には畝をたてて明きよをしていたと思いますが、今一度確認しましょう。梅雨の長雨で明きよが崩れたりゴミが詰まったりして、水がたまるとう樹が弱ってしまうので注意します。その後梅雨明け後に急に日差しが強くなり、急激に乾燥すると樹が弱るので、土壌水分が急激に変化しないように適度に灌水を行います。つるが伸びる所へワラを敷いていり果実への泥の付着を防げるだけでなく、土壌水分の変化を少なくできるので有効です。

### ●収穫

大玉西瓜の収穫適期の確認は色々あります。西瓜を手のひらで叩いて確認する方法や果節の巻きひげが枯れたところが収穫適期、といいますが、一番確実なのが人工交配を行ってから45日前後が収穫適期となります。人工交配を行った日付を付けている場合は、試食してみてもいいし、収穫を確認して同じ日付のものを受け取り、収穫適期の目安にしてください。



### 資料1 株の掘りあげ



### 資料2 大玉西瓜収穫適期目安

果形	肩の張りがよくなり、花落ち部が凹む
色沢	若いつやが失せ、光沢が鈍くなる
触感	花落ち部を押すと少し柔らかくなっている
打音	手のひらで叩くとポテポテと半濁音がする
巻きひげ	果実の付いている節から出た巻きひげが枯れる

## 花き



営農部指導課  
中川 雄一

枝・幹の中を食い、荒らす害虫から花木を守りましょう

### 花木に食い込む害虫

バラに、黒くきれいなカミキリムシがとまっていませんか？ゴマダラカミキリといいますが、下部をよく見ると、樹皮ががらがらしています。油断していると大切なバラに産卵、幼虫に幹を食害されまその生態と対策です。

### ●ゴマダラカミキリの生態(資料3)

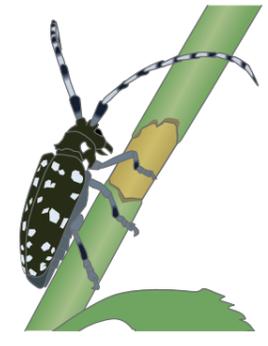
身の回りでよく見つかるとは、センダンやイチジクなどをはじめ多くの樹種が宿主になっています。樹木に限らず草本までカミキリムシの中でも食草が多様な種です。柑橘類の重要な、また、バラにもよくつく害虫として警戒されています。

地際近くの樹皮をかじった部分に産卵し、孵化した幼虫はしばらく樹皮近くを食害した後、枝の中に食い入ります。幼虫は内部を食害しながら生長、翌年6～7月ごろ成虫になって出てきます。幼虫は地下部にも入るので、食害によって株が弱り、若木の場合は枯れることもあります。

### ●カミキリムシ対策

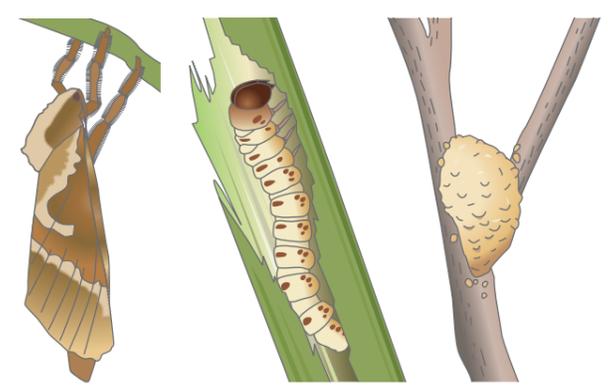
被害樹の株元付近を見ると、幼虫が食入したところからおおが屑のように糞を出しています。侵入孔を見つけ、針金などを突っ込んで駆除するか、バラなど登録がある樹種ではそ

### 資料3 バラの茎をかじるゴマダラカミキリ

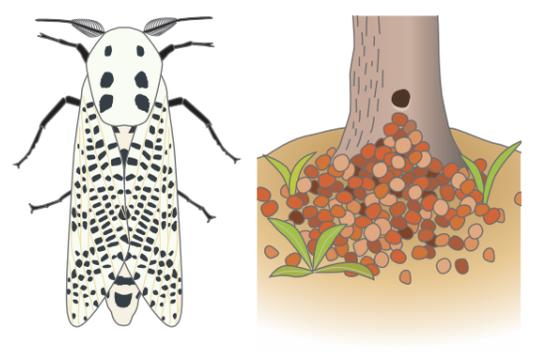


### 資料4 コウモリガ

左:日中の成虫 中:草の茎中の幼虫 右:幼虫が作った蓋



### 資料5 ゴマフボクトウの成虫と食入口の下にたまった糞



の穴にキンチョールEなど、カミキリムシ用の殺虫スプレーをノズルで注入するのが確実です。ぼっかり空いた穴は、成虫が出た跡ですから中に幼虫はいません。また、6～8月の成虫が飛来して産卵する時期に、捕殺すること、成虫は弱った木によく産卵するというので、適宜追肥や枯れた枝の整理などを行い、樹勢を保つ努力も必要です。

### ●カミキリムシ以外の食入する害虫

カミキリムシ類はイチジクなどの果樹を加害することも多く、果樹では散布薬剤の登録もあります。

### ●コウモリガ(資料4)

ガの幼虫が茎の中に入って食害します。食入口には木くずや糞を糸で綴った蓋をしていて、幼虫が小さいうちは枝を環状に食害し、その場合も同じように木くずなどで表面を覆っています。木質部を食べて成長した幼虫は5～8℃ほどになります。成虫が発生するのは8～10月、昼間はコウモリのように枝などに下垂して留まっています、夕暮れから活発に飛び回りながら卵を地面にまき散らします。

翌春この卵がふ化して、はじめは雑草を食べ、ヨモギやギンギシ、ワラビなどの茎に侵入します。そして

6～7月ごろ、木に移動し木質部を食べて越冬、翌6月に蛹になり、8月以降抜け出して羽化します。蛹の抜け殻が半分くらい脱出した部分に突き出すように残ります。

### ●コウモリガの駆除

幼虫は木の中を上にもつかうので、針金などで駆除します。ブドウなどではカミキリムシ同様に穴に注入する薬剤の登録もあるようです。また、ふ化幼虫がはじめ雑草につくので、除草管理を徹底しておくことも大切なポイントです。

### ●ゴマフボクトウ(資料5)

成虫は白に黒マダラの方で6～9月ごろ羽化し、樹皮の割れ目などにま

めて産卵します。ツツジ、ヤナギ、ツバキ、カエデ、チャなどさまざまな木を幼虫が加害します。ふ化した幼虫は枝や幹である程度生長すると地際部から食入し、根にむかって穿孔します。食入した部分には蓋がなく、その下に淡赤色のコロコロした糞がたくさん転がっています。コウモリガのように糸で綴っていないのが特徴です。

### ●ゴマフボクトウの駆除

成虫飛来時期は樹皮の間の卵塊を見つけた次第取り除くこと、食入痕を見つけたら針金を入れて幼虫を駆除することが直接の対策です。

### ●まとめ

花木、果樹に共通ですが、カミキリムシ類に樹幹部をひどく食害された状態で放置すると、強風時に折れる危険性もあるので注意が必要です。いずれの虫も、被害枝や枯れ枝を取り除き、雑草も刈っておくようにしましょう。

# 果樹

環境の変化を  
軽減するように  
しましょう



営農部指導課  
武田 祐一

● **ブドウの管理**  
 今月の主な作業はブドウの袋掛け、モモの収穫、柿の最終摘果、ミカンの摘果・追肥の施用、梅への礼肥施用などがあります。梅雨が明けると夏季の高温乾燥期に入ります。急激な天候の変化で果実品質の低下が懸念されますので天気予報など気象状況に気を配り、敷きわら・敷草などマルチングの実施、また晴天日が続く場合は、灌水を行うなど環境の変化を軽減するような工夫を心がけましょう。

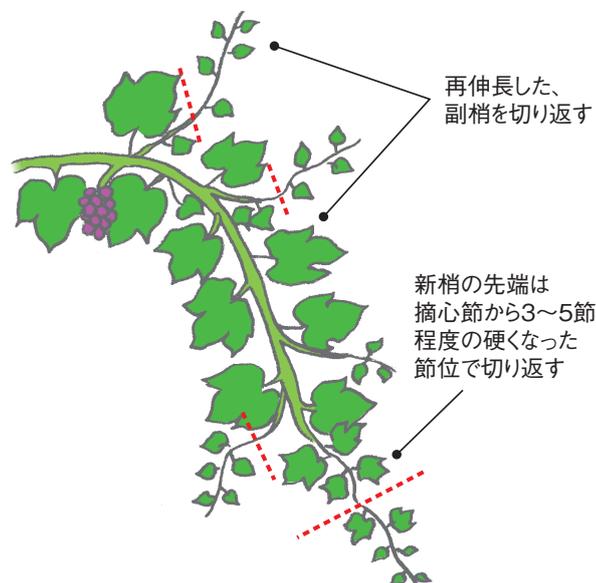
## ● 結果量調節と枝管理について

簡易被覆栽培(トンネル栽培)のピオーネは今月中旬から果粒軟化期(果粒をつまんでみると柔らかくなる時期)を迎え、着色が始まります。この時期から果粒へ急速に糖分が蓄積されますが、枝の本数や樹勢に対して着果量が多すぎると糖度が上がらないことや着色が進まないなど悪影響が出てきます。

果粒軟化期までに5本の新梢に3房程度の着果量となるように房形の悪いものや新梢が細いものを中心に摘房を行い調整しましょう。まだ枝が伸びている場合は、副梢や新梢の先端を切除します(資料6)。袋掛けは、直前に病害虫防除の農薬を散布して、乾きだいで速やかに行いましょう。農薬散布

## 資料6 果粒軟化直前の枝葉管理例

新梢の先端から1本の副梢を伸ばした場合



## ● 柑橘類の摘果

昨年、着果過多であったところでは、今年の着果は悪いと思います。

は房にかけ過ぎると果粉の溶脱や房汚れの原因になるので、さあーっと掛け、枝葉を中心に薬剤散布を行います。袋掛けから収穫までの間は果実の成熟が進むにつれてカラスによる鳥害が発生しやすくなります。実際に被害が出る前に防鳥ネットの設置やテグス糸を張るなどの対策を行いましょう。

また、土壌水分が極端に変化すると裂果の原因になるので、灌水は天気を見ながら、少量をこまめに行いましょう。

果粒軟化後、枝の熟れ(登熟不良のサイン)緑色から白けだつて茶色に変色していくが着果過多で枝の充実が悪いと緑色が残る)が悪いものは着果過多となり成熟が遅れます。

ふつうは7月上旬に生理落果が終わった後から8月上旬までに荒摘果、8月中旬〜9月上旬に仕上げ摘果、9月中旬〜10月上旬に樹上選果合わせて3回摘果作業を行います。

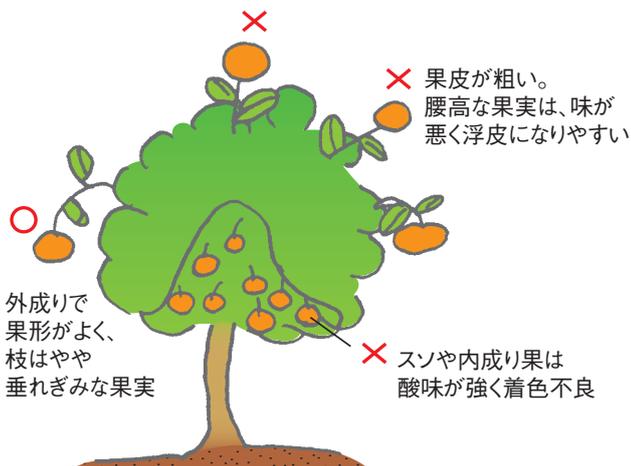
荒摘果では、傷果や小玉果、変形果を摘果し、地際の裾成り果や樹の内側の方に着果している内成り果も糖度が上がりにくく酸が抜けにくいので、摘果しましょう(資料7)。

病害虫防除では、ハダニ類・サビダニ類、カイガラムシ類、黒点病を予防します。果実の着色開始ごろに果皮が黒くなるのは、サビダニの被害です(爪で擦っても剥がれない)。ミカンにはハダニ類とサビダニが両方発生しますので、両方に効く農薬を使用しましょう。カイガラムシ類は排泄物に黒色のススが付着するので果実を爪で擦ると黒色のススがかかります。

## 資料7 温州ミカンの荒摘果

×は摘果

果梗が太く天を向いた果実



## ● モモの収穫

極早生品種の「はなよめ」は6月上旬ごろ、早生品種は6月下旬ごろから順次収穫が始まります。モモの成熟は、日あたりの良好なところから始まるので、上の方から樹冠内部にかけて順次収穫していきましょう。

個々の果実の収穫適期幅は1〜2日程度しかないので、毎日若しくは1日おきに収穫するのが望ましいです。収穫は果実温度の低い早朝(9時ごろまで)に収穫を行います。収穫は果皮色の緑色がほとんど抜けて淡黄色、淡緑色となったところで過熟軟化していかない時期を狙って収穫します。市場や贈答用で収穫する場合は熟れごろより2〜3日程度早めに収穫します。収穫後は、持ち帰った果実を風通しのよい涼しい日陰で速やかに出荷調整します。



## サーモンのポキ丼

### 材料 (2人分)

ご飯…………… 1合  
 サーモン切り身…………… 2枚  
 キュウリ…………… 1/2本  
 トマト…………… 1/2個  
 玉ねぎ…………… 3/4個  
 レタス…………… 葉1枚程度  
 青じそ…………… 少々  
 卵…………… 2個

### <調味料>

醤油(濃口)…………… 大さじ1.5  
 めんつゆ(3倍希釈のもの)…………… 大さじ1.5  
 酒…………… 大さじ2  
 みりん…………… 大さじ1  
 ごま油…………… 小さじ1弱  
 ワサビ…………… 小さじ1/2  
 (わさびチューブ4cm)

### <トッピング>

白ごま…………… 少々

- 調味料をすべてジップロックに入れ、漬けだれを作っておく。
- サーモン、トマトはそれぞれ1cm程度の角切り、きゅうりは0.5cm程度の角切り、青じそはみじん切りにする。レタスは洗浄後、ひと口大に手でちぎっておく。
- ①の漬けだれにサーモン、きゅうり、青じそを加え、30分以上漬け込む(冷蔵庫に保管)。
- 生卵を耐熱容器に入れ、卵が被るくらいの水を加える。黄身に穴をあけ、電子レンジで500w、1分程度加熱し、温泉卵を作る。固まりが悪い場合は追加工加熱を行う。
- ご飯に漬けだれを大さじ1程度かけてから、レタスとトマトをのせる。この上に、③で漬けた具材を盛り付けてから、真ん中に半熟卵をのせる。最後にトッピングで白ごまを振りかける。

### Point!

- ・お好みで長めに漬け込んでもOK。
- ・青じそを1/2に切ったものを敷いてから温泉卵をのせてもOK。
- ・酸味が好きな方は、サーモンなどの具材に軽くレモン汁をかけてもおいしいです。
- ・夏場は温かいご飯に冷たい具材をのせてお好みでわさびを追加することで、さっぱりと食べることができます。

Instagram

あぐろ  
グラム

編集後記

## 千足古墳

今回のあぐろグラムでは、岡山市北区新庄下にある千足古墳について紹介いたします。

全国で4番目の大きさを誇る、造山古墳の南に築かれた6基の倍塚のひとつです。全長約81m、後円部の直径約63m、同高さ7.4m以上、前方部の幅26mからなる前方後円墳で、前方部が短いので「帆立貝形古墳」とも呼ばれています。2015年から8年がかりの復元整備工事が終わり、一般公開されました。古墳の上には出土した埴輪の複製品が並べられています。墳丘へ登って、古墳時代を想像してみたいかがでしょうか。

編集担当 難波 昭浩



各種媒体で情報発信



オンラインショップ  
はなやか  
オンライン



Instagram



Twitter



YouTube

